

第2節 法勝寺川・小松谷川流域の弥生時代前期の遺跡について

清水川六反田遺跡2区では弥生時代前期の遺物と共にS D37やS D41の溝状遺構や突帯文土器が検出された。このため法勝寺川・小松谷川流域の弥生時代前期の遺跡の様子を概観することにより、清水川六反田遺跡の弥生時代前期の遺跡の性格を考察してみたい。

1. 米子平野域の弥生時代遺跡

米子平野域（註1）の弥生時代遺跡の分布状況は、散布地、包含層等を含めた数で約200か所が確認されている。遺跡数は一時期に限られた短期の遺跡や前期～後期の各期に渉るものなどを1か所と数えた数であるが、土器の散布地や墳墓・集落など性格、規模は様々である。

米子平野域で時期別に弥生時代遺跡の分布状況を見ると、前期の遺跡は約35か所確認されている。代表的な遺跡は低地では水田遺構が発見された目久美遺跡、丘陵地では環濠遺構の清水谷遺跡、諸木遺跡などがある。前期の遺跡の立地は山裾低地や砂丘上、低位台地上という傾向にあり、とくに加茂川水系・法勝寺川水系に多く見られる。

中期の遺跡は約93か所確認されており、代表的な遺跡は低地では前期から引き続いている目久美遺跡、丘陵地では宮尾遺跡や大型掘立柱建物が発見された茶畑山道第1遺跡などである。また下山南通遺跡や藍野遺跡など大山西山麓の高原にも遺跡が出現している。立地的には山裾低地や砂丘上、丘陵斜面、台地上、高原地帯に分布が広がっている。

後期の遺跡は約110か所確認され、低地に立地する遺跡は比較的少なく、中期後半期から引き続いて丘陵地上に営まれる遺跡が多い傾向にある。丘陵地上では青木遺跡、百塚第7遺跡、浅井土井敷遺跡などがある。また後期前半からの妻木晩田遺跡や越敷山遺跡群のような集住形態をとる大規模集落遺跡が、やや高い丘陵地上に出現するという特色が見られる。後期の遺跡は立地的に丘陵地上や台地上に多い傾向にある。

また地勢単位で分布状況を観察すると、東から①名和台地上に分布する名和台地地域。②淀江平野・所子扇状地上に分布する淀江大山地域。③佐陀川流域と丘陵台地上に分布する日野川右岸・佐陀川流域地域。④日野川中流域と大山西山麓の高原上に分布する日野川中流地域。⑤米子市新山を始源とする加茂川流域の小平野と砂丘地、丘陵地上に分布する加茂川・中海地域。⑥法勝寺川下流域の小平野と長者原台地に分布する長者原台地地域。⑦小松谷川流域の小平野と丘陵台地や越敷山に分布する小松谷川流域地域。⑧法勝寺川上・中流の小平野と丘陵台地に分布する法勝寺川上・中流地域。以上のような大まかな8地域に分布がまとまっていると考えられる。

また、遺跡立地と時期的な継続性の面から観察すると、①低地の微高地や山裾に立地し、前期から中期末に営まれた目久美遺跡や口陰田遺跡などの遺跡、②低位丘陵地に立地し、前期から中期前半に営まれた今津岸の上遺跡、諸木遺跡などの環濠遺跡、③丘陵地、高原上に立地し、中期から後期に営まれた下山南通遺跡、藍野遺跡などの遺跡、④丘陵や台地上に立地し、中期中葉から古墳時代まで営まれた青木遺跡や百塚遺跡群などの遺跡、⑤丘陵斜面や山裾に立地し、中期から後期に営まれた東宗像遺跡などの遺跡、⑥やや高い丘陵地上の集落で後期前半から後期末に営まれた妻木晩田遺跡群や越敷山遺跡群などの遺跡、⑦丘陵地上や斜面に立地し、後期後半に営まれた陰田第1遺跡や吉谷中馬場山遺跡などの遺跡の7類型が考えられる。

これらの遺跡の立地的な動向は、従来から言われているように低地から山裾へ、そして丘陵・山稜上の立地へ展開していることを示している。また、遺跡の時期的な継続状況には画期があり、おおまかに前期から中期に継続するものと中期末から後期末・古墳時代初頭に継続するものの大きく2つの傾向が認められる。清水川六反田遺跡は、法勝寺川上・中流の小平野と丘陵台地に分布する法勝寺川上・中流地域にあり、低地の山裾微高地に立地する前期から中期末に営まれた一遺跡であると位置づけられる。

2. 法勝寺川上・中流域、小松谷川流域の弥生時代遺跡

当遺跡の所在する小松谷川流域と法勝寺川上中流域の弥生時代遺跡の分布状況を見ると、流域では第10表のように、44か所の弥生時代遺跡が確認される。

まず小松谷川流域では、流域の山裾や丘陵上に遺跡が分布しており、前期には天王原遺跡と諸木遺跡が丘陵上に立地し、両者とも環壕遺跡であり中期以後は営まれていない。また口朝金遺跡、天萬土井前遺跡、大袋丸山遺跡が山裾に立地している。口朝金遺跡では山裾低地の弥生時代後期～古墳時代の水田跡が確認されているが、前期の土器は水路状の溝状遺構の包含層から検出されている。天萬土井前遺跡では前期の遺構は、はっきりしないが土器溜まりから前期の土器が検出され、弥生時代～古墳時代の土坑や溝状遺構が確認されている。大袋丸山遺跡では明確な遺構は確認されず包含層から前期の土器が検出されている。

中期の遺跡は天万遺跡が山裾に立地し、朝金第2遺跡、宮尾遺跡、宮前遺跡、浅井土居敷遺跡、越敷山遺跡群が丘陵上に立地している。朝金第2遺跡では中期の土器包含層と土坑が検出され、宮尾遺跡では環壕から中期初頭の土器が検出されている。宮前遺跡は中期中葉から後葉にかけて営まれた木棺墓群の遺跡である。浅井土居敷遺跡は中期後葉の集落跡で後期まで存続する。越敷山遺跡群は中期後葉から古墳時代初頭にかけて営まれた山稜高地の集落跡群である。

後期の遺跡は丘陵上に立地するものが多く、田住桶川遺跡、田住松尾平遺跡、田住滝山遺跡、荻名第2遺跡など越敷山麓に展開する集落跡である。田住桶川遺跡では後期前半の木棺墓群が確認されている。また朝金小チャ遺跡では後期末の在地系の特殊器台を出土した墳丘墓が調査されている。

次に法勝寺川の上・中流域でも山裾や丘陵上に遺跡が分布し、前期の遺跡は北方廣畑遺跡、枇杷谷遺跡、清水谷遺跡、境矢石遺跡、境内海道西遺跡、清水川六反田遺跡が確認される。北方廣畑遺跡は丘陵裾台地上にあり、古墳時代前期の集落跡で遺構外に前期末の土器が検出されている。清水谷遺跡は丘陵上に立地する環壕遺跡で環壕から前期の土器が検出されている。枇杷谷遺跡、境矢石遺跡、境内海道西遺跡、清水川六反田遺跡は山裾下斜面から低地に立地している。枇杷谷遺跡は善棚山裾に位置し、突帯文土器と弥生時代前期の土器と土坑が検出され、古墳時代の段状遺構や土坑も確認されている。境矢石遺跡は山裾下斜面から低地にかけて前期の土坑状溝や木棺墓群が確認されると共に、丘陵上に弥生時代中期～古墳時代にかけて集落が営まれている。境内海道西遺跡は谷裾の包含層から弥生時代前期の土器が出土するが遺構は不明である。丘陵上には弥生時代後期～古墳時代にかけて集落が営まれている。

中期の遺跡は丘陵上に清水谷遺跡、境矢石遺跡、境内海道西遺跡が存続している。

後期の遺跡は丘陵上に立地するものが多く、八金清水田遺跡、八金小ブケ遺跡、北福王寺遺跡、福成石佛前遺跡、福成早里遺跡、境北井塔遺跡などの集落跡が確認されている。

以上のように両河川流域の弥生時代遺跡を概観しても、立地的傾向は低地から山裾へ、そして丘陵・山稜立地へ展開していること、また时期的な継続性も米子平野域の遺跡と同様な傾向が認められることから、法勝寺川上中流域・小松谷川流域の弥生時代遺跡も立地動向などに独自の地域的特色は認められない。

3. 突帯文土器と弥生時代前期の遺跡

清水川六反田遺跡では突帯文土器と弥生時代前期の土器の出土が認められた。両河川流域での突帯文土器と弥生土器の出土関係を第10表で概観してみると、突帯文土器と弥生時代前期の土器を出土している遺跡は、小松谷川流域では口朝金遺跡、天王原遺跡、天萬土井前遺跡、大袋丸山遺跡であり、法勝寺川上中流域では清水川六反田遺跡、福成大坪上遺跡、枇杷谷遺跡、才ノ木遺跡、境矢石遺跡である。天王原遺跡を除いて、いずれの遺跡も丘陵裾低地という立地的共通性を持ち、突帯文期の後半から弥生時代前期の時期幅が見られる。突帯文土器を出土し弥生時代前期の土器が認められない遺跡は、小松谷川流域では朝金第2遺跡、金田堂ノ脇遺跡、御内谷向田遺跡、越敷山遺跡群、法勝寺川上中流域では福成早里遺跡が見られる。これらの遺跡の立地は全て丘陵上に立地しており、中期以降に営まれた遺跡である。このことは、縄文時代晩期から弥生時代前期にかけて、突帯文土器と弥生時代前期の土器を持つ低地の遺跡のグループと、突帯文土器しか持たない丘陵地の遺跡のグループが存在したと考えられる。これは縄文時代から弥生時代への移行期に、流域でいち早く弥生文化と接触した集団と、そうでない集団が居た状況を物語っているのではないだろうか。清水川六反田遺跡の突帯文土器と弥生時代前期の土器の出土は、弥生文化と接触した集団が、清水川の山裾低地に居住し農耕の営みを始めたことを物語っているのではないかと推察したい。

4. 弥生時代前期の溝状遺構について

清水川六反田遺跡2区から発見された溝状遺構S D37は、その形状から環壕の一部ではないかと想定された。そのため、米子平野域の環壕遺跡例から遺構の検討を行ってみた。

米子平野域の環壕遺構は名和台地地域では大塚岩田遺跡、淀江大山地域では今津岸の上遺跡、妻木晩田遺跡、日野川右岸・佐陀川流域地域では尾高御建山遺跡、尾高浅山遺跡、日下寺山遺跡が確認されている。小松谷川流域では天王原遺跡、諸木遺跡、宮尾遺跡の3遺跡が、法勝寺川上中流域では清水谷遺跡の1遺跡が確認されている。これら10遺跡の営まれた時期は弥生時代前期後葉から中期前葉の時期と後期前葉の時期の2時期に限られている。また、集落を囲っていたと考えられる環壕遺構は尾高浅山遺跡のみである。

法勝寺川上・中流域、小松谷川流域の環壕遺跡の様子を見ると、天王原遺跡は水田面との比高8.3mのなだらかな台地上にあり、弥生時代前期末とされる環壕は最大幅1.4m、深さ1.1mの断面V字状で弓状に伸びる溝が長さ44.8m確認されている。環壕規模は45×40mの楕円形を呈すると推定されている。環壕内に同時期の竪穴住居跡など居住遺構は発見されず、環壕内外に同時期の貯蔵穴が4基検出されている。諸木遺跡は水田面との比高10mのなだらかな台地上に立地し、弥生時代前期末とされる環壕は最大幅2m、深さ1.5mの断面V字状で弓状に伸びる溝が長さ30m前後調査されている。環壕規模、環壕内遺構は工事中発見のため不明である。宮尾遺跡は水田面との比高5mで、なだらかな台地上に位置し、弥生時代前期末～中期前葉とされている。環壕は最大幅1.4m、深さ1.2mの断面

V字状で弓状に伸びる溝が長さ30m調査されている。環壕規模は未調査区の試掘の結果44×39mの楕円形を呈すると確認されている。環壕内に同時期の遺構は調査区範囲の関係で確認されていない。清水谷遺跡は水田面との比高17mの丘陵上にあり、弥生時代前期末～中期前葉とされている。環壕は最大幅2.4m、深さ1.2mの断面V字状で、環状の溝が46×31mの楕円形に巡る。環壕内に同時期の竪穴住居跡など居住遺構は発見されず、貯蔵穴が4基検出されている。

このように法勝寺川上・中流域、小松谷川流域の環壕遺跡例は、弥生時代前期後葉から中期前葉の時期の遺跡であり、断面V字状の溝で環壕内に同時期の竪穴住居跡など居住遺構は確認されていない。また、立地は全て水田面との比高が5m以上のやや高い丘陵台地上にある。このことから清水川六反田遺跡2区の溝状遺構S D37は時期的には弥生時代前期の溝ではあるが、溝断面形がV字状ではないこと、立地が現水田面との比高0mという低地にあることなどの違いがみられる。調査区外に伸びていく全体像が不明であることや、流域の環壕遺構との比較からすると、溝状遺構S D37は環壕遺構とは想定できないとの結論を得た。

註・参考文献

註1) 旧名和町、旧大山町、米子市、南部町、伯耆町の範囲を米子平野域として設定した。

濱田竜彦 2005 「山陰地方における縄文時代晩期土器について ―鳥取県、島根県東部を中心に―」

『縄文時代晩期の山陰地方』 第16回中四国縄文研究会発表資料 中四国縄文研究会

小原貴樹ほか 1986 『日久美遺跡』 米子市教育委員会

中原 斉ほか 1986 『下山南通遺跡』 財団法人鳥取県教育文化財団

青木遺跡発掘調査団編 1976 『青木遺跡発掘調査報告書Ⅰ』 青木遺跡発掘調査団

岩田文章ほか 1996 『百塚遺跡群Ⅴ』 淀江町教育委員会

辻 信広 1999 『茶畑山道遺跡』 名和町教育委員会

西川 徹ほか 2001 『大塚岩田遺跡 大塚塚根遺跡』 財団法人鳥取県教育文化財団

中山和之 1991 『今津岸の上遺跡発掘調査報告書』 淀江町教育委員会

松本 哲ほか 2000 『妻木晩田遺跡発掘調査報告』 大山スイス村埋蔵文化財発掘調査団 大山町教育委員会

太田正康ほか 1994 『尾高御建山遺跡 尾高古墳群』 財団法人鳥取県教育文化財団

米子市教育委員会編 1998 「尾高浅山遺跡」『米子市文化財ガイド2』 米子市教育委員会

下高瑞哉 2004 「日下寺山遺跡」『米子市内遺跡発掘調査報告書』 米子市教育委員会

永田祥二 1956 「米子口陰田遺跡」『ひすい25』 佐々木古代文化研究室

中原 斉ほか 1985 『東宗像遺跡』 財団法人鳥取県教育文化財団

杉谷愛象ほか 1984 『陰田』 米子市教育委員会

濱 隆造ほか 2003 『吉谷遺跡群 吉谷中馬場山遺跡 吉谷屋奈ヶ塔遺跡』 財団法人鳥取県教育文化財団

その他の参考文献は第10表の文献欄のとおり

第10表 法勝寺川・小松谷川流域の弥生時代遺跡一覧

番号	遺跡名	所在地	突帯文	弥 生					種別・遺構	立 地	主な遺物	文 献	備 考
				I	II	III	IV	V					
法勝寺川水系													
1	八金清水田遺跡	南部町八金						○	集落（竪穴）	丘陵上	土器	八金小ブケ遺跡 八金清水田遺跡 2005 南部町教育委員会	
2	八金小ブケ遺跡	南部町八金						○	集落（竪穴）	丘陵上	土器	八金小ブケ遺跡 八金清水田遺跡 2005 南部町教育委員会	
3	北方廣畑遺跡	南部町北方		○				○	集落（土坑）	丘陵上	土器	北方廣畑遺跡 1998 西伯町教育委員会	
4	北福王寺遺跡	南部町原						○	集落（竪穴）	丘陵上	土器	マケン堀古墳群 北福王寺遺跡 1990 西伯町教育委員会	
5	マケン堀古墳群	南部町原						○	集落（竪穴・土坑）	丘陵上	土器	マケン堀古墳群 北福王寺遺跡 1990 西伯町教育委員会	
6	原竹山遺跡	南部町原						○	集落（竪穴）	丘陵上	土器	原竹山遺跡 1992 南部町教育委員会	
7	清水川六反田遺跡	南部町清水川	弥	○				○	集落（溝・土坑）	丘陵裾	土器 石器	清水川六反田遺跡現説資料 2009 米子市教育文化事業団	
8	清水川御崎前遺跡	南部町清水川						○	集落（溝・土坑）	丘陵裾	土器	町内遺跡発掘調査報告書 2010 南部町教育委員会	
9	枇杷谷遺跡	南部町寺内	Ⅵ	○					土坑	丘陵裾	土器 石器	枇杷谷遺跡 1987 会見町教育委員会	ドングリ遺体
10	オノ木遺跡	南部町寺内	○					○	集落（竪穴）	山裾～丘陵	土器	オノ木遺跡 2002 会見町教育委員会	岡田善治氏教示
11	福成大坪上遺跡	南部町福成	弥	○					集落（溝・土坑）	丘陵裾	土器 石器	埋蔵文化財調査室年報13 2012 米子市教育文化事業団	
12	清水谷遺跡	南部町福成		○	○		○	○	環壕・集落	丘陵上	土器 石器	清水谷遺跡 1992 西伯町教育委員会	環壕
13	福成石佛前遺跡	南部町福成						○	集落（竪穴）	丘陵上	土器 石器	福成石佛前遺跡 1993 西伯町教育委員会	
14	福成早里遺跡	南部町福成	Ⅵ					○	集落（段状）	丘陵上	土器	福成早里遺跡 1998 鳥取県教育文化財団	
15	境北井塔遺跡	南部町境						○	集落（竪穴・段状）	丘陵上	土器 石器	境北井塔遺跡現説資料 2010 米子市教育文化事業団	
16	境矢石遺跡	南部町境	Ⅵ 弥	○	○		○	○	集落・墓（竪穴・段状・木棺墓）	丘陵裾	土器 石器	境矢石遺跡現説資料 2010 米子市教育文化事業団	
17	境内海道西遺跡	南部町境		○			○	○	集落（竪穴・段状）	丘陵裾	土器 石器	町内遺跡発掘調査報告書 2010 南部町教育委員会	
小松谷川水系													
18	田住桶川遺跡	南部町田住						○	墳墓（土墳墓）	丘陵上	土器	朝金第2遺跡他 1997 鳥取県教育文化財団	越敷山遺跡群
19	田住松尾平遺跡	南部町田住						○	集落（竪穴・段状）	丘陵上	土器	田住松尾平遺跡発掘調査報告書 1995 会見町教育委員会	越敷山遺跡群
20	田住滝山遺跡	南部町田住						○	集落（竪穴・掘立）	丘陵上	土器 石器	田住滝山遺跡 1995 会見町教育委員会	越敷山遺跡群
21	高姫近藤遺跡	南部町高姫						○	集落（竪穴・段状）	丘陵上	土器	高姫近藤遺跡 1988 会見町教育委員会	
22	口朝金遺跡	南部町朝金	V Ⅵ	○	○		○	○	生産（水田・畑）	丘陵裾	土器 石包丁	口朝金遺跡 1988 会見町教育委員会	
23	朝金小チャ遺跡	南部町朝金						○	墳墓（墳丘墓）	丘陵上	土器	朝金小チャ遺跡 1995 会見町教育委員会	在地系特殊器台
24	朝金第1遺跡	南部町朝金					○		集落（竪穴・土坑）	丘陵上	土器 石器	朝金第1遺跡 1997 会見町教育委員会	
25	朝金第2遺跡	南部町朝金	V			○	○	○	土坑	丘陵上	土器	朝金第2遺跡他 1997 鳥取県教育文化財団	
26	朝金天田遺跡	南部町朝金						○	集落（竪穴）	丘陵上	土器	朝金天田遺跡 1996 会見町教育委員会	
27	天王原遺跡	南部町朝金 南部町金田	弥	○					環壕・陥穴・土坑	丘陵上	土器 石器	天王原遺跡発掘調査報告書 1993 会見町教育委員会	環壕
28	金田堂ノ脇遺跡	南部町金田	V					○	包含層	丘陵上	土器	御内谷遺跡群 1998 鳥取県教育文化財団	
29	御内谷向田遺跡	南部町御内谷	Ⅳ			○		○	土坑	丘陵上	土器	御内谷遺跡群 1998 鳥取県教育文化財団	
30	越敷山遺跡群	南部町荻名	Ⅵ				○	○	集落・陥穴	丘陵上	土器 石器	越敷山遺跡群 1994 会見町教育委員会	大規模集落
31	荻名第5遺跡	南部町荻名						○	集落（竪穴・掘立）	丘陵上	土器	荻名第5遺跡 1993 会見町教育委員会	越敷山遺跡群
32	荻名越敷原第2遺跡	南部町荻名						○	集落（竪穴）	丘陵上	土器	荻名越敷原第2遺跡 1998 会見町教育委員会	越敷山遺跡群
33	浅井土居敷遺跡	南部町浅井					○	○	集落（竪穴・掘立・貯蔵穴・墓）	丘陵上	土器 石器	浅井土居敷遺跡現説資料 1981 会見町教育委員会	
34	宮前遺跡	南部町宮前				○	○		集落（竪穴・貯蔵穴・墓）	丘陵上	土器 石器	宮前遺跡 1979 会見町教育委員会	
35	宮尾遺跡	南部町宮尾		○	○				環壕	丘陵上	土器 石器	宮尾遺跡発掘調査報告書 1993 会見町教育委員会	環壕
36	天萬土井前遺跡	南部町天万	V Ⅵ	○		○	○	○	包含層	丘陵裾	土器	天萬土井前遺跡 1996 鳥取県教育文化財団	庄内系土器
37	天万遺跡	南部町天万	○			○			土坑・集落	丘陵裾	土器	宮尾・天万遺跡発掘調査報告書 1977 会見町教育委員会	
38	天万土井刈場遺跡	南部町天万						○	包含層	丘陵裾	土器	町内遺跡発掘調査報告書 2000 会見町教育委員会	
39	諸木遺跡	南部町諸木		○					環壕	丘陵上	土器	諸木遺跡他調査報告 1975 会見町教育委員会	環壕
40	上安晏第1遺跡	米子市上安晏						○	散布地	丘陵上	土器	米子市埋蔵文化財地図 1994 米子市教育委員会	
41	上安晏第4遺跡	米子市上安晏							散布地	丘陵上	土器	米子市埋蔵文化財地図 1994 米子市教育委員会	
42	荒神ノ峰遺跡	米子市上安晏						○	散布地	丘陵上	土器	米子市埋蔵文化財地図 1994 米子市教育委員会	
43	下安晏遺跡	米子市下安晏						○	散布地	丘陵上	土器	米子市埋蔵文化財地図 1994 米子市教育委員会	
44	大袋丸山遺跡	米子市下安晏	Ⅵ	○				○	包含層	丘陵裾	土器 石器	大袋丸山遺跡 1991 米子市教育委員会	朝鮮系無文土器

※ 表中の番号は第95図の番号に対応する



第95図 法勝寺川・小松谷川流域の弥生時代遺跡分布図